

- 何でも言える●何でも書けるミニ雑誌〈あごらミニ〉
- 小さな〈ひろば〉=AGORA・〈あごら〉
- あなたの声を待ってます。みんなでつくる〈あごら〉

# あごら

MINI

〈61号〉

1982年5月10日発行 ¥100 千40

## 今月のなかみ

＜編集担当・あごら武蔵野＞

情投 報稿	お知らせ	随 想 論	表紙のことは 随 想 論
81年度会計／老いを考えるグループ発足／アンケートにお 答えを ほか あごらミニ60号を読んで 半田たつ子／三船照子 ほか……7 女のつどい・女の講座……8	4・10集会／5・23東京行動／佐世保で『あごら』読書会／ 81年度会計／老いを考えるグループ発足／アンケートにお 答えを ほか あごらミニ60号を読んで 半田たつ子／三船照子 ほか……7 女のつどい・女の講座……8	「女」をやめたい……千川 節子……2 「女」でよかった……望月 汎美……4 私が「女」を受け入れたとき……山本かなえ……5	トンネルをぬけたら……曾田 蕭子……1 女と組織―女とのつながりを求めて…あごら武蔵野V……2 「女」をやめたい……千川 節子……2 「女」でよかった……望月 汎美……4 私が「女」を受け入れたとき……山本かなえ……5

## トンネルをぬけたら

曾田 蕭子

気になることがある。「女の子は○○したらシアワセになれるよ」という言葉である。○○の中には手あたり次第の言葉が入っている。「お転婆したら」「口をとんがらかしたら」……「理科系なんかいったら」……という具合に無限に続く。

これは本当なのか。

私は若い頃困ったことに、楽しいと思ったことはほとんどシアワセにならない方に分類されていた。それでもやろうとすると一人でトンネルを歩く覚悟がある。じっとしているのが息ぐるしくてのろのろ歩きだした。……気がつくとき手さぐりには手さぐりの楽しさがある。

あるとき「あんなに皆がいうシアワセっていったい何だろう。ワカラナイ。だからそんなシアワセはいらない。一つ一つの心楽しさを追っかけよう」と決心した。

不思議なことだ。そのとたんトンネルは跡形もな

く消えてなくなった。高校の時だった、いろいろやってみた。地図がないから自分で予想をたて自分で準備して自分の足で歩く。それでうまくいく楽しさといったらない。

何のことはない。男だって女だってうまくいくこともあるし、いかなこともある。七転び八起きでいい。転び方がうまい、ということもある。そこから何かを得たらしい。

女はそのようなチャンスには、抜群に恵まれる。自分のやりたいことを続けたかったら、一計も二計も案じなければならぬ。まわりの人に自分のイメージを伝えることは、ことに肝要である。パイパスを通る知恵も、チャンスを待つ忍耐もいる。

だから自分らしく生きている女の人たちが、内から湧くエネルギーと人間的魅力をあふれんばかりにたたえているのを見ると、さもありなん、と思う。トンネルをぬけたら世界が開けている。

語り合おう！心ゆくまで！

あごら全国大会は

7月31日(土)・8月1日(日)

①7月31日(土)

ひろがる「あごら」

◆15時30分―18時

「いま私はこれが言いたい」  
(各界女性30名のスピーチ)

◆18時―21時

「語り合おう、ひびき合おう」  
(立食パーティ)。この間に「あごら」の歌／応募作を流す。歌・踊りなど飛入りアトラクションも大歓迎)

◆21時以降

「自由懇談」和室3室で。

②8月1日(日)

「あごら」トークイン

◆9時―11時30分

各拠点その他の活動報告と討論

◆12時30分―14時30分

講演(講師交渉中)

◆14時40分―16時30分

公開運営会議

◆会場

①が東京・新宿・厚生年金会館 ②が四谷・主婦会館

◆参加費 ①が3000円(パーティ代込み) ②が2000円(昼食代込み)

◆宿泊費

2人部屋1人3190円、個室4180円(厚生年金会館80人限り。予約の方は郵便振替東京0115264「あごら」に代金をお振込みください)

## 女の組織—女とのつながりを求めて

あごろが出来て10年、武蔵野も5年目。ひと区切りの時が過ぎた。いま私たちがとって、女たちのつながりとは？ これからこの場をどう育てるのか—想いはさまざま。

そこで、自分自身が、どう女を発見し女と出会ったのかという原点に立ち返るところから始めたいと思う。そして、今日まで続てきた女とのつながりの場を再確認し、これからの私たちが女の展望を拓いていきたい。

△あごろ武蔵野V

### △あごろVとの出会い

A △あごろVの全国大会が開かれたころ、私はすごく悩んでいたのね。たったひとりで孤軍奮闘だったから。その時に河野貴代美さんがリーダーのグループに入って、//わたしにとつての女性解放とは何か//ということ話を合した。ところが私は、私にとつての女性解放が何かなんて全然わからなかった。すると河野さんから、「なぜ、△あごろVに入

F 私も8年前ぐらいにはじめて『あごろ』の雑誌を読んで、その時はとっても新鮮だった。

### いま、私たちにとつて

#### △あごろVとは

B でも、こんなにいわゆる女の情報があふれる時代になって、もうそろそろ雑誌『あごろ』の使命は終わったんじゃないかなと思うのよ。

C あなたの個人史にとつては、『あごろ』の使命は終わったのかもしれないけど、まだそういうことに気づいていない女たちにとつては終わってないんじゃない。

B でもそういう人たちにとって、本は有効なものかな。以前は情報がほとんどなくて、うつうつたる思いの女たちが『あごろ』を手にしたとき、すごく新鮮だったわけよ。でも、もう違うんじゃないかって気がするのよ。

D だけど、使命が終わったということとはね、あなたが道を歩いていて、行き交う女の人の

ちがいにこにはは笑んでくれて、ああ、同じことを考えているなと思えるというわけではないんでしょ。

B それはちがうわね。

C だから使命が終わったというのではなくて、今、あの本で新鮮なものがあるのかどうかということじゃない。

E でも正直言って、あれ一冊読むにはかなりの労力が必要ですよ。全部読めたらいいなあとと思うけど、かなりしんどい。本が送られてくるのはうれしんだけど、さつと読めないのよね。だから友達に読んでみてと勧めるときも何となく構えちゃうのよ。だから、このままでは広がりないんじゃないかなって気がする。

### 私たちにとつての

#### △あごろ武蔵野Vとは？

B 本が持つ意味には、そういう問題を考えるきっかけを与えるということと、問題をきちんと考えるということの二つあると思う。でも、本を読むことだけでは女の問題を自分の問題として発展させるベースにはなり得ないという気がする。そのもの足りなさから、お互いのひびき合いの場として女のグループが生まれてきたのだと思う。△あごろ武蔵野Vが生まれたきっかけもそこらへんにあったわけでしょう。でも月1回のミーティングに、なかなか人が集まらなかったりすると、△あごろ武蔵野Vっていったい私たちにとつて何なのかって考えちゃうわけ。△あごろ武蔵野Vの使命も終わったのかななんて思ったりして。

A 私はいつも出て来たいと思うのよ。でも現状が許さないのね。毎回でも来たいと思う

のだけど、来れないのよ。

C 本当に来たいと思う人は、なかなか出れないんじゃない。子どもが小さかったりして。

A だから、こういう所に出て来られて話し合いに参加したり、ミニを作ったりできる人は、ある意味では女の中のエリートだと思う。ほかの人より環境が恵まれているという意味でね。たしかにそうかもしれない。

B じゃあ、あなたにとつていったい△あごろ武蔵野Vって何なの？

A 希望の灯よ(笑)。会に出られなくても、ああ、今日もやってくるんだあとと思えるんだから。

D 私も半年ぶりに出て来たんだけど、ミーティングがある時はいつも心の中で意識している。

E そう、△あごろVの人々の顔が浮かぶでしょう。いつでも行けば入れてもらえるというのには、本心にのよりどころよ。私は二年前から新潟のほうに引っこんでいたのだけど、通信が送られてくるとますます出たいという気持ちには熱くなるけど出られないのよ。こんな気持ちは、自由な時間が十分にあった時には味わえなかった。時間がないと、どうしても自分には△あごろVのミーティングに出たいのかって考えるようにもなる。そして、△あごろVの人とのつながりが、いかに自分にとつて大きいかかわかるのね。たしかに希望の灯よ(笑)。

B うーん、でも何となくすっきりしないな。そうね、ミーティングで皆に会えた懐しさのために、ミーティングの内容があいまいにされることかしら。

B そうなのよ。皆と会えて楽しかったんだけど、何となくすっきりしないものが残る。

つて初めて「女」を素直に受け入れることができて、それ以来、弱みだと思っていた「女」によって自分の世界が広がっていくのを感じた。だから長男の時とはちがって子育てって楽しいなあと思えるようになったのよ。  
 A 私、楽しくないなあ(笑)。  
 E 私の場合は、病院へ行くのが間に合わないくて、たった一人で自力で産んだのね。夫が電話をかけに行ってる間に。私はもう座っているだけで、黒い頭がスルツと出てきてね。あつ死んでるのかなあと思った。最後にへその緒と彼女の足が出るとすぐに彼女は泣いたわけ。それで、ああ、生きてるんだなあって思った。抱きあげると、おちんちんがないから女の子だとわかった。宇宙ではじめてたった2人で出会ったわけでしょう。ああこの人女でよかったなあってつくづく思ったの。そして、女ってすごいなあって感動した。  
 B 男の子でも、同じじゃなかったの？  
 E でも私は女の子が産みたかった。どうしてかというと、新潟の家のはうでは今だに男の子が生まれると「でかした」で、女の子だと「あつそう」とあしらわれて話にものぼらないわけ。それがくやしくて、私はどうしても女の子を産みたかったの。  
 B 今、私が思うのは女だからということであるのよ。なぜかな。  
 C それは私もそうよ。若いころは何であんなに女にこだわってたんだらうって思う。ひとつには自分の意識の持ち方みたいなものもあるんだよ。  
 G 意識と言うよりも、ひとつひとつの積み重ねによって自分のやりたいことができてきたからじゃない。私なんか若いからまだまだ



行く手に障害ばかりが立ちはだかつている。そんな時、「女だから、差別されているから……」と考えたほうが案外よ。自分の力で克服できてきた人たちはそう考えなくなるのは当然ね。

D 仮りに自分の力で克服できないにしても、一直線にスーッといくのではなくて、まがりくねった道を歩いたことから得られるものが大きかったんだと思えるようになって、女で損したと思うことも少なくなったんじゃない。

B そうよ。  
D はたから見るとスイスイに見える女の人でも、実際にはいろいろと迂余曲折があるんだから。

### これから……

G 男に負けるな、とがんばってきた一方で、負けて当然、どうせ差別されてるんだからと免罪符を求めているところがあると思う。

B でも、やっぱり男並みにやっても差別される……。

H 男の土俵の上でいくらがんばってみたところで、ものさしがはつきり違うんだから、女の力は計れっこないわよ。女は女で、女の価値観で女の論理を展開するしかないんじゃないかしら。

D そうして女が組織を作っていくというとき、これは大切だと思ふんだけど、組織の目的と個人の目的が分裂すべきでないと思うの。というのは、女のグループというのは、個人的な人間関係を基礎にしていると思うの。最も基本的な生活者としての視点を持ち続けていると言ってもいい。でも男の組織は、まず、だてまを大事にする。

F 女の組織は、しっかり人間関係という土台を大切にしていきたいね、こみたに子どもと食べ物話に尽きるとしてもね(笑)。  
H 笑ってるけど、子どもや食べ物するのは

人間の生活そのものの問題だということよ。  
A 女が子どもを産めて、育てているということは、親が子と共に育ち、また新しい人間関係を作れるということでもあると思うのね。子育てを通して、私自身、全く新しい視点を持つ人間として成長できた。

B 子どもとの関係、それにそこを接点として広がる人間関係をクリエイティブに創り出すことができる女の性は、確かにプラスイメーじだよ、まちがいないく！  
E 男が子どもにつきあわないうのは、そういう意味で全く可愛想ね。子どもの視点を知るのには、大人にとって新しい視野の開拓でもあるんだから。

D かと言って、母性を神聖化するの危険ですよ、これは。  
B もちろん子を産む性として母性を規定はできないと思う。産まない女の問題がとり残されてしまうのだから。

G でもあえて女の論理と言うなら、今の資本主義の生産過程では「体力のない女」とか「出産育児休暇をとる女」ってのは企業にとって非効率、ムダだと思ふのね。でも女には産む性としてのいのちをいとおしむ人間としての感情が残っていると言えらると思う。

C 命、稗りしを守る女だからこそ、女の運動は人間解放へつながる視点を持てるんじゃないかしら。  
H 私はいま妊娠4か月なのね。おなかの中の生命を育むということは、産む性としての女のプラスイメージを同時に育てているように思えるわ。

C 女の土俵は女がそれを創るのだし、男の土俵つてのは、女子どもの側に身を置けば、とってももろいものだと思うのね。

G 女の組織、女の文化というのは、やはり女が、女の出発点を大切にしていって、中で創り出していくものでしょうね。

(82・4・24)

### 「女」をやめたい

千川 節子  
(学生)

私は女をやめたい。女は「人間」じゃないから。女である限り「人間」にはなれないと思う。

女は男に頼らなきゃ生きていけない。

他の女は知らない。私は、自分の中の「女」を認めた時、「人間」ならば当然背負わなきゃならない自分の人生を肩から降ろしてしまふ。「人間」じゃないんだから一所懸命頑張って生きる必要はないという免罪符を自分に与えてしまふ。

「赤毛のアン」のように生きるのも楽しいだろうなと思う。でもそれでは物足りない。「ボーヴォワール」のように生きるか？ それも満たされない。

「女」「女」とこだわるより「人間」として生きたいと思うとき、モデルは常に「男」なのである。哲学書や文学の中で、「人間」とか、「人の生きる道」とかいうとき、それは「男」を意味しているときかと思えない。文学の中の女は常に、男によって「評価され」たり、「見られ」たり「生かされ」たりする存在でしかない。

男は女性差別など存在しないというけれど、今度生まれるとき男がいいか女がいいかと問えば、男は例外なく「男」と答えるのに対して、「男」に生まれたいと答える女が多く存在するという事実が、端的に女の状況を表わしている。

女が女として自分の生を認められないというのは、社会的圧力がそれだけかかっている

ことの証明だ。私は、主婦にも、フェミニストにも、革命家にも憧れ、どれもアイデンティファイできない。ボーヴォワールを読むとき、私の中で赤毛のアンが羽になり、「赤毛のアン」の世界に魅かれるから、エリザベールや、レジスタンスを羽とする。そのうちのどれでもなく、私らしい私とは？ 自分の言葉と感じられる言葉とは？ 小田実や、男のイデオロギーに反感を感じるとき、「女」が自分の羽になっていくのに気付くとき、

「女」はマイナスイメージではないと、自分が女であることを肯定できるような気がする。まだ生み出されていない、自分の言葉を持つ何か、それは女なのかも知れないと思いつつ、「女性学」でも勉強してみようかと思う今日この頃だ。

「女」をやめるといふ時の「女」とは、私の中の甘えを免罪させる何かを捨て、「人間」として生きる決意の象徴であって、いつか本当の「女」を自分として認めたいと願っている。

### 「女」でよかった

望月 汎美  
(主婦)

私が女に生まれてよかったと思ったのは、やはり子どもを産んだ時だっただろう。一つの生命の誕生に涙が出るほど感動した。産み落とすまで、自分の中で胎児が動いても、生きているナ、と思ひこそすれ、湧きあがるような子どもへの愛情を感じず、なんということは一度もなかっただけにそれは私にとって本当に不思議で、新鮮な感動だった。

しかしそれから悪戦苦闘、大人の意のままにならぬ赤ん坊と、社会とつながっていた

いと続けた仕事とのあつれきの中で「やっばり、女は損だ、今度生まれる時は絶対男だ」と思い続けた。

母から受け継がれた男社会への怒り（母は父の死後、会社づとめをしながら私たちを育てたが、男社会の中で女のへの不当な差別は、ほかのいろいろな労苦と重なって、怨念に近い怒りとなってぶき出していった）、学校教育、また社会での不平等は女への絶望感を増幅させるばかりだった。

その私が、女は素晴らしい、女こそ次の時代を切り開いていく性なのだと思えるようになったのはごく最近のことである。

「いい女」との出会い、それが私の思いを変えた。

仕事をしながら、いや専業主婦でも、自分の主張をもち、自分の言葉で語り、女との連帯の中で社会を変えていこうとする女たち、本音で生活のこと、仕事のこと、男とのこと、性のことまできちんと語りあえる仲間がいるのはすばらしい。

男社会の中で、骨身をけずる思いをしながら、へこたれることのない生き生きとした女たちと語り合っていると、女に生まれて良かったと思う。小学生の娘にも「女のほうがいい。女のほうが男よりずっとすばらしい、女のほうがすぐれている」と本当に言える。ハあごらVはそうした「いい女」との出会いの場の一つであると思う。

## 私が「女」を受け入れたとき

山 本 かなえ  
(市議会議員)

これという特別の原因があったわけではな

い。しかし気がついてみたら、私は「女である」ということを否定して生きてゆこうとしていた。それはまだ幼な時期のように思っている。母とか周りの個別の女性に対する悪感情はなかった。「女」全般にわたるすべてのものを自分のなかでいつも否定していた。そして、決して男に生まれかわることはできないという事実、この世の最大の理不尽なこととして私のなかで、いつも荒れ狂っていた。遊ぶ友人、つき合う友人はいつも男であった。何人かの女の友人もあるにはあったが、女たちの集団に入ることではできず、私にとつては、女性とは異邦人であった。そんな時期は、幼少から大学を卒業し、結婚するまで続いた。しかし、男の友人と遊ぶなかで自分を全面的に解放できたかというそうではない。男のなかで自分が女であるというのを思い知らされる、私のなかでは男に對する負けじ魂が育っていった。そしていつの頃からか、自分のなかの女を否定し、男に勝つことが、私の生きるひとつの柱になっていた。

そんななかで結婚し、子どもが生まれた。第一子は男であった。当然のこととして受け入れた。自分が女を産む、女の子の親になる、そんなことは考えることさえ拒否した。

それなのにである。こともあらうに第二子は女の子だった。胎児が産道から出て、ホッとした安堵感に浸っていた私のうに、「女のお子さんですよ」という声が聞こえた時の驚きとこのたどたどしさ。青天のへきれきとは正にこのことだ。分娩台のうえで全身の力がぬけていった。

そんなバカな、こんなことがあってよいのか、これは何かのウソにちがいない、十か月も自分の体のなかで育ててきたものが女だ

ったとは何ということだ、そんなことを落胆のどん底のなかで考えていた。

もう一人の女をかかえて、生きてゆくことができるのか、それこそ女が自分の産んだ子どもであるとは、出産を無事終えた喜びも感動もなく、時計を逆にまわすことができないという事実だけが確かなものとして、私のなかに重く沈んでいった。

そして一夜あけた翌日。逃れようもない現実に対面するときにきた。授乳のため、赤児を自分のベッドに引きよせるのである。

重い体と心をひきずって看護室にゆく。私はその児を抱くことができないのか。「女」という十字架をもうひとつ私に背負わせるその児を。その瞬間を迎える緊張で身も心も自分のものではない。

受け取る心構えのない母親の手に、赤児は事務的に手渡された。力の入らない手に3キロの赤児は重く、一瞬とり落としそうになった。ハッとして抱きなおした。その瞬間だった。私の体のなかで何かが破裂したのは。

乳房から乳があふれ胸をぬらした。瞬間に子宮が収縮したその強さは今も忘れない。全身がふるえ、思わず抱きしめた赤児のうえに涙がとめどもなくこぼれ落ちた。

## 可能性教室に新講座

### 外国人のための日本語教室

外人に日本語を教える専門教育を受けた北村三和子さんの指導で始めます。最初は全部英語で、クラスが進むにつれ、日本語での説明が多くなります。お知り合いの外人で日本語を習いたい方にもお知らせください。時間は毎週火曜または木曜の昼間。詳細は事務局までお問い合わせを。個人教授も可。

あふれる涙で、子どもを抱いて病室に帰るそのとき、私のなかの積年の「女」に対するこだわりは、氷がとけるようにとけていった。その時から「女」に素直になれた。そして「女」に対する愛は自然に醸成されていった。それは一日一日と深くなった。

今は、すべての女を、ただ女であるというだけで受け入れ、愛してゆける。今、私の女性解放運動の源となっているのは、女に生まれた悔しさではなく、すべての女たちに対する愛である。

## 「あとがき」

あちこちで組織論が活発なようです。ハあごら武蔵野Vも含めての女の場の意味について、本誌よりも話し合いを重ねてきました。本誌よりはむしろ「ミ」のほうこそが大切なくらいじゃないかと思うのですが、なかなかびき合いの場所とはなりにくいですね。ご批判、お待ちしています。(N)

## アンケートにお答えを……

ハあごらVも10年、顔を合わせたことのない方もふえました。姓の読み方がわからず名簿の整理に困ったり、それに何よりも「あな」はハあごらVに何を望み、どうかかわってくださるのか、もう一度問い返し、みんなのハあごらVの方向性を定めたいと思います。お忙しいと思いますが、ぜひご回答を。全国大会参加の中し込みも兼ねています。

## 5・23 核兵器廃絶と軍縮をすすめる

### '82年・平和のための東京行動

日時 5月23日(日)10時～15時

◆主会場 代々木公園・上野公園

◆スローガン「核戦争への道を許さず、ヒロシマ・ナガサキの心を世界へひろめよう」

6月の国連軍縮特別総会に向けての3千万人署名とともに、被爆国の首都東京で30万人

△38婦人団体で▽

### 私たちの一票で平和を築く婦人のつどい

婦人参政権を得た4月10日、反戦・軍縮の38団体から成る△婦人の行動を広げる会▽は日本教育会館で平和集会を開きました。  
地婦連・田中里子、有権者同盟・紀平梯子、両氏の司会で、井上頼豊氏のチェロ独奏に始まり、坂本義和氏の講演「軍縮と市民」。

### あなたのインタビュ記事・原稿を『あごら』に

26号は『女と戦争』『女と情報』を受けてこの危機的状況の中で私たちがすべきことを模索しようという『いま女がモノを言う』というこ

と(仮題)を編集中です。  
左記の原稿を募集中ですので、ぜひご応募ください。

①インタビュ「いまモノ言う女たち」

何か言わずにはいられない、せずにはいられない女たちがふえました。あなたが記者と

集会を成功させましょう!

反原発の問題、東京大空襲をどう取り上げるかなど、問題を含みながらも、あらゆる層を取り込む統一行動を展開します。

メイン会場のほか、婦人の広場・語り部の広場等も設けられる予定。

続いて映画『人間をかえせ』。被爆37年の重みに寂として声もない中で、学生・主婦・被爆者など、さまざまな立場の女性7人が反戦・反核をアピール、「原爆許すまじ」の合唱の中に幕を閉じました。幅広い層の女性に参加、反核・軍縮の思いを新たにしました。

なりインタビュして記事にまとめてください。四百字詰六枚程度。写真もいっしょに。まとめ方の要領は24号・25号参照のこと。

②手記「モノ言わぬ女からモノ言う女へ」  
ご自身のあふれる思いを10枚程度に。

以上、締切は5月25日(火)必着。謝礼は①が取材者に6千円、被取材者に掲載誌3冊、②が5千円。ただしいずれも採用分限り。

不採用の場合返却希望の方はその旨連絡を。

### よびかけ!! 保育園裁判に連帯を

遊くん、梅生くん、曉ちゃんの「あすなる保育園裁判」と連帯し、女性が人間らしく生きるために、「人権としての公保育」を考える——市民の会(仮称)づくりに参加してください。

「あすなる保育園裁判」は、去る3月26日、子どもたち3人とその親たち(岩崎洋二・則子、斎藤典子)により、保育園と板橋区を相手どり、東京地方裁判所に、児童福祉法の保障する「乳幼児が安全で健全に保育をうける権利」が奪われたとして、損害賠償請求の訴えを提起したものです。

遊くんは0歳のとき、板橋区の入所措置になり、私立のあすなる保育園に入園しましたが、高たんぱく質アレルギー体質のため、両親が弁当の持参許可や給食への配慮を申し入れたのに対し、保育園はこれを聞き入れず、ついには板橋区により遊くんと梅生くん(母親が遊くんの両親を支援したため)は他の区立保育園に転園処分されました。これを不当として拒否すると、入所措置そのものを解除して、保育園にはいれないようにしました。遊くんの妹の曉ちゃんについては、あすなる

### 81年度△あごら▽の収支は 残念ながら250万円の赤字

△あごら▽始まって以来の大赤字になりました。原因は、△BOCVから経済的に分離し、経済的自立を図り始めたことに一因があります。

園への入所申請すら理由もなく却下しました。

岩崎さんらは、板橋区や保育園がこのような暴挙を行うのは、すべての乳幼児がすこやかに発達する権利を保障することを目的として女性の人間らしく生きる権利と一体のものとして制定された児童福祉法の本来の理念をないがしろにするもので、戦前と同様に救済的、家庭保育の補充的なものとしてしか考えていないことによるものであると考え、「人権としての公保育」の確立を痛感、これに共鳴した8人の女性弁護士が弁護士団に立ちました。児童福祉法の悪用により、子どもと母親、保育者の人権が危機にさらされている今日、「人権としての公保育」を確立していくことは人権保障の大きな柱になるものと考えます。

1よびかけに賛同して下さる方は御連絡を。電話03(九八五)三三〇八・婦人協同法律事務所

語り合おう! ひびき合おう! 全国大会は7・31(土)8・1(日) 申し込みはお早めに!

525人、264万6735円にすぎませんでした。4月11日の運営会議で、この赤字処理をめぐり討論しましたが、「運営会議全メンバーは、へあこらVの運営に物心両面の責任を負う」という当初の申し合わせどおり、81年度の全メンバーで負担しよう、という結論になりました。しかし1人当たり約20万の負担は、やはり大変なことですので、まず、できるかぎり会費未納分を回収しようと、現在、必死の努力を続けています。皆様それぞれのご事情はありますが、分納でも結構ですから、未納の方は、この際、ぜひご送付くださいますようお願いします。5月10日までにご一報のない方は、発送を中止する予定です。

なお昨年の事務処理が不十分だったことも十分反省し、今年からは新しい事務局体制で、諸システムの整備から立て直しを図っております。何分にもへあこらVは、どこからも援助を受けず、会費収入が存続の基盤です。助、今年度分会費も、どうぞお早めにお振込みくださいますようお願いいたします。

あこらMINIあこら

(投稿欄です。ご意見・感想・何でも。『ミニ』の相互批判もどしどし……)

### 土浦近辺の方へ!

福岡から引越して来ました。お近くのあこら会員の方、ぜひご連絡下さい。

〒300土浦市中村西根一四四二一六 三沢方伊藤悦子(☎02984426346)

### 『ミニ』60号を読んで

「夫についてホッペを語る」から、もう5年になるのですね。ちょうど立教に教えに行っていたところで、学生たちの甘い結婚願望をどうしたらよいか思案していたとき、『あこらミニ』を活用することを思いついたのでし

### 講演と討論の会

主体的に生き、モノを言った女

伊藤野枝を考える  
講師 井手文子 於「あこら読書室」  
日時 5月21日(金) 7時~9時

### ユックリズムで

「老い」を考えましよう

『宮本百合子』や『風流夢譚以後』などの著者で知られる中村智子さんや、『ミニ』58号「老いについて」にいいリポートを発表された高橋優子さんたちが中心になって呼びかけた「老いを考える」グループは、4月21日発足、とりあえず7人でスタート、フェミニストの視点で老いを考えること、各人回り持ちで司会し、まず、各自の考えを話し合いながら、想いを深めること、などを、決めました。

当面、第2、第4水曜午後2時~4時にへあこら読書室Vで。参加費1回200円。

た。あとの斎藤氏夫妻の対話と、山口夫妻のと、ともかく3号分を大量にお送りいたいて学生に読ませ、感想を書かせたのでした。

「あこらに集まって夫の悪口を言いリニーンを下げてくれるのは愚かな女たちである」というのもあり、私はその山なす感想の中から学生の考え方を知り、ほんとうにタメになったものでした。当時の方たちが、それぞれに自分を変え、夫を変え、状況を切り開いてこられたことを、「愚かな女」と言った学生に知らせたいと思います。「5年という歳月にあなたは何をしましたか?」と問いかけて。あの時の座談会は、たしかアルファベット

### あこら読書会を始めます

佐世保

佐世保市へあこらを読む会Vが5月14日発足します。10時から13時まで宮崎町4の9「ら・ぼーら」(☎0956228661)で第1回の集まりを持つ予定。連絡先は佐世保市中央区の坪町3の10佐世保郵便局私書箱75 佐世保あこら

### 反核軍縮署名・カンパ好調

全国からの署名簿とカンパは、4月後半に入りますます盛り上がりつつあります。最終報告は次号で。

### 4月分会費受け入れと基金のご報告

4月分納入は、81年度分10名、3万5500円、82年度分44名、26万5000円、83年度分12名、1万8000円、基金は4名、2万7000円でした。新入会は14名、うち男性1名、地域は東京6、山梨3、新潟2、埼玉・京都・愛媛・福岡各1です。

だったのですよね。いま、きちんとフルネームを名乗られて、いいな、すがすがしいな、と思いました。(東京・半田たつ子)

\*

60号、とてもよかったです。自分の性格や環境、能力と相談しながら、夫と闘い、社会に対してふんばり、いろんなエネルギーを同時進行させながら、自分の主体性、視点を得てゆく人、本当にすてきです。勝者・敗者みたいな力みがなくなってきたせいか、女には、ゴールもランニングコースもタイマーも何もないのだな、とつくづく思います。(仙台・三船照子)

## 育ち合い

保育をわたしたちの手に

編集・婦人民主クラブ  
パンフレット委員会  
価 五五〇円  
冊 二〇〇円

このパンフレットは婦人民主新聞一九七九年二月九日号から約二年間掲載してきたシリーズ「育ち合い」を集録し、なお保育の全体像をつかむために若干の補足・資料を加えたものです。ここに見られるたくさんの実践は、多くの示唆を含むものですが、産休明けや長時間保育論争にみられるように、特定の保育像を提出したのではなく、意見の隔りは隔りとしてそのままに、今後、子供と共に育ち合う関係を模索する一つの手がかりとなれば幸いです。

- I 保育所はいま
- II 産休明け保育と長時間保育
- III 保育労働者の労働実態
- IV 差別とたたかう保育
- V 男の子育て
- VI 諸外国の保育状況
- VII 資料編

送料一冊二〇〇円、二冊二五〇円、四冊まで三〇〇円、七冊まで三五〇円、十冊まで四〇〇円です。  
お申し込みは書記局へどうぞ。

婦人民主クラブ

東京都渋谷区神宮前三一三一八  
電話 03340233244



# 〈女のつどい・女の講座〉

日	時	テ	マ	会	場
5月10日(月)	13:30~15:30 19:00~	婦選会館講座 日本の政治と選挙 講師・柚正夫 (毎月第2月曜日)	核はいらない/反戦平和をめざす新宿のつどいコンサート	婦選会館 03-370-0238~9	新宿安田生命ホール (新宿西口)
11日(火)	13:30~15:30	婦選会館講座 心理学教室 講師・秋山達子 (5/11~7/20隔週火曜)		婦選会館 03-370-0238~9	あごら読書室 03-354-9014
12日(水)	14:00~00:00	老いについて考える (参加費200円)		喫茶のあ 011-511-1377	ら・ぼーら 0956-22-8661
13日(木)	18:30~21:00	あごら札幌・例会		東京YWCA	鈴木宅 連絡 0726-23-3495
14日(金)	10:00~15:00	佐世保<あごらを読む会>第1回		浦和コミュニティセンター	名古屋市中区役所講堂
15日(土)	14:00~21:00	今こそ沖縄を考える市民集会 講師・小田実 新崎盛暉 <日市連>		シャンバラ	浦和市民会館コンサート室
16日(日)	11:30~19:00	あごら大阪・例会		鈴木宅 連絡 0726-23-3495	東京地裁民事19部
	13:30~17:00	あごら浦和・例会 「戸籍について」		浦和コミュニティセンター	YWCA会議室
	13:30~17:00	第4回名古屋市婦人のつどい		名古屋市中区役所講堂	福岡市立婦人会館
	13:00~17:00	あごら京都・例会		シャンバラ	かわら版
19日(水)	19:30~21:00	「反核と青年の生き方」 講師・筑紫哲也 <全通青年部南部ブロック>		浦和市民会館コンサート室	代々木公園ほか
	13:00~15:00	鉄道の7人とともに性による仕事差別・賃金差別と闘う会 東京地裁公判		東京地裁民事19部	喫茶滝沢
21日(金)	18:30~	新しい共同と新しい言葉を求めて/反核・反戦・反安保のための呼びかけ		YWCA会議室	あごら読書室 03-354-3941
22日(土)	18:30~21:00	あごら九州・例会		福岡市立婦人会館	名古屋市婦人会館
	19:00~	あごら武蔵野・例会		かわら版	東京 サンケイ会館
23日(日)	13:00~16:00	反核・反戦30万人東京集会		代々木公園ほか	柏市旭町近隣センター
24日(月)	19:30~21:00	あごら京王・例会		喫茶滝沢	埼玉集事事務局 0488-85-1338
26日(水)	14:00~16:00	老いについて考える (参加費200円)		あごら読書室	あごら読書室
27日(木)	10:00~12:00	あごら東海・例会		名古屋市婦人会館	福岡市立婦人会館
28日(金)	10:00~	第7回日本婦人問題会議 「あらゆる分野への男女の共同参加」		東京 サンケイ会館	喫茶のあ 011-511-1377
30日(月)	12:00~16:00	あごら柏・例会 『各国女性事情』『母性をひらく』を読んで		柏市旭町近隣センター	渋谷勤労福祉会館 (バルコ向い)
	13:00~16:00	戦争への道を許さない女たちの埼玉集会 討論会とデモ (4時出発)		埼玉集事事務局 0488-85-1338	シャンバラ
6月9日(水)	14:00~16:00	老いについて考える		あごら読書室	あごら読書室
13日(日)	14:00~17:00	あごら九州・例会		福岡市立婦人会館	福岡市立婦人会館
	18:30~21:00	あごら札幌・例会		喫茶のあ 011-511-1377	あごら読書室
19日(土)	13:30~17:00	私たちの男女雇用平等法をつくる会・総会		渋谷勤労福祉会館 (バルコ向い)	あごら読書室
20日(日)	13:00~17:00	あごら京都・例会		シャンバラ	福岡市立婦人会館
23日(水)	14:00~16:00	老いについて考える		あごら読書室	浦和コソ 7 F 文化ホール
26日(土)	18:30~21:00	あごら九州・例会		福岡市立婦人会館	
27日(日)	19:00~	反核討論集会 <ニューウェーブ'80>		浦和コソ 7 F 文化ホール	

## 何か学びたい方、伝えたい方可能性教室にどうぞ-----

可能性教室は、「人はすべて可能性を持つ」を信条に、技術や知識を伝え、育ち育て合うことを願って運営されています。

技術や知識を提供したい方、先輩から学びたい

方、ご連絡ください。教室には、英語のように常設されているものと、編集・電算機など、ある特定期間行なわれるものがありますが、希望のクラスを希望の形で設けることができます。

各地のあごら連絡先	
あごら旭川	旭川市神楽岡1条5丁目3 田代慶子 0166611655 6237 千07811
あごら札幌	札幌市西区琴似1条6丁目グランドハイツ琴似 01111664422 2927 千063
あごら仙台	仙台市茂庭字生出前4の65 三船照子 02022224455 5994 千982102
あごら浦和	浦和市南浦和2-19 山中マツ江 0448887711 3680 千336
あごら柏	柏市豊四季台3-11 68 古賀節子 0474144511 6724 千277
あごら北東京	豊島区東池袋1-45 11 メゾン金子202 0398511333 3088 千1770
あごら武蔵野	小平市小川町1-7 63 丹羽雅代 0423114333 6749 千187
あごら京王	調布市仙川町3-12 32 福井浅子 033087712 7871 千182
あごら神奈川	川崎市多摩区東生田2-12 森山方沼田千恵子 044933333 9079 千214
あごら東海	愛知県愛知郡東郷町和合ヶ丘1-12 伊藤汎美 056133119 2233 千4701
あごら京都	京都市左京区一乗寺築田町56の1 塚崎美和子 075117911 4622 千606
あごら大阪	茨木市西駅前3-10 遠藤由美 0726112233 3423 千567
あごら九州	福岡市西区笹丘2-4 小島豊子 0922521176 224 千8110